

■平成26年度第8回（第238回）都市経営戦略会議結果概要

【日 時】 平成26年10月22日（水） 午前9時45分～午前10時05分

【場 所】 政策会議室

【出席者】 市長、遠藤副市長、木下副市長、本間副市長、水道事業管理者、教育長、技監、政策局長、総務局長、財政局長、都市戦略本部長、総合政策監、保健福祉局長

【議 題】（1）さいたま市立病院施設整備事業について

< 提案説明 >

さいたま市立病院施設整備事業について、保健福祉局長から次のような説明があった。

- ・市立病院の施設整備における事業費について、基本計画時（平成23年）に想定していた約213億円が、昨今の労務費及び資材価格の高騰、消費税の増税等により、約318億円に上昇する見込みとなった。
- ・高等看護学院の施設整備事業費についても、建築費の高騰等により、基本計画時の9億円から約12億円となる見込みである。
- ・基本計画時の工期については、新エネルギーセンター工事の遅れから、高等看護学院の改築・移転も遅れ、その影響により、新病院の開院を平成31年度としていた。
- ・上記についてのコスト削減及び工期短縮のためには、市立病院と高等看護学院の一体整備による配置計画の見直しが考えられる。この配置計画によれば、平成29年度末の開院を目指すことができる。
- ・病床数については、埼玉県第6次保健医療計画の増床に関する公募状況が未定であるため、精神病床を除いた病床数で先行整備し、第7次保健医療計画の動向を見据えた上で、精神病床の増床を目指すこととした。
- ・事業費の増加に対する財源の確保については、基本計画と比較して、起債額を約56億8千万円増額し、一般会計から約37億円の補助をお願いするとともに、市立病院においても収支改善を図り、事業費に充てる内部留保資金を約14億8千万円増額することにより対応したいと考えている。
- ・市立病院としては、経営基盤を強化し、建設工事期間中における一般会計繰入金金の低減を図ることで、平成59年度までに累積欠損金の解消を図っていきたいと考えている。

< 意見等 >

- ・事業スケジュールの見直しにおいて、設計に要する期間が短縮されているが、その理由は何か。
- 当初は、実施設計と施工を一括して発注するデザイン・ビルド方式（以下、DBとい

う)によるスケジュールであり、実施設計に入る前に事業者選定に期間を要することを想定していた。今回、工期短縮を図るため、実施設計の途中から施工業者を入れ、工期短縮やコストダウンの技術提案を受けながら、早期着工を目指す技術提案方式でのスケジュールとしたため、設計に要する期間を短縮することができた。

・当初の計画でDBを採用しない理由は何か。

→市立病院としては、工期短縮とコストダウンを図るための整備手法を検討した。まず、工期短縮の面から、事業者選定等にあまり期間をかけずに進めるには、DBの場合、実施設計と施工を併せて発注するため、実施設計に入る前に事業者選定に期間を要する。しかし、今回提示した技術提案方式の場合、施工業者を実施設計の途中から入れるため、そのような期間を要しない。また、コストダウンの面から、DBの場合、工事費が高騰している現状では将来の工事費の伸びを見込んでの入札となるため、場合によっては工事費が高くなると考えている。一方で、技術提案方式の場合は、コストダウンの提案を実施設計段階で受けることで、コストダウンを図ることができるのではないかと考えている。

・技術提案方式の場合は、事業者選定の方法はどうするのか。

→基本設計に基づき、プロポーザル方式でコストダウンや工期短縮の具体的な提案を受けて、事業者選定する予定である。

< 結 果 >

・ 保健福祉局発議のさいたま市立病院施設整備事業については、了承する。

< 会 議 資 料 >

(資料) さいたま市立病院施設整備事業について